



鳥取商工会議所 青年部

市民の共有財産を守り
後世へつなぎ続ける

「鳥取市に桜の一大名所を作り、後世に残る市民の共有財産にしたい」という思いで生まれた「因幡千本桜 桜の園」(同市布勢)。1984年に鳥取商工会議所青年部に実行委員会が立ち上がり、壮大な事業を完成させ、今でも市民の大切な名所として守り続けています。

85年4月に最初の植樹を行い30本のソメイヨシノを植えた。その後も青年部メンバーや家族、地域の小中学校生、高校生らの協力を得ながら継続的に植栽事業を続けた。86年3月に行った5回目の植樹をもつて千本を達成。鳥取県へ引き渡した。



青年部メンバーらにより丁寧に植樹が行われた(2017年11月)



桜の名所として親しまれる「因幡千本桜 桜の園」

光名所となった一方で、台風や大雪などの災害により桜の数が減少。その数は900本弱にまで減っていた。

同青年部では、名所の桜を復活させようと2016年から桜の植樹を再開。5年計画で再び千本を目指す。「後世に残る市民の共有財産」を、時を隔てた現在の青年部メンバーが引き継ぎ守っている。先人の思いはまた次の世代へつながつていく。



先輩方が手掛けた「因幡千本桜 桜の園」事業は私たちの誇りです。この素晴らしい風景を後世に残していくことが私たちの責任と考え活動していきます。



会長
杉内 勝成さん

